



第9回

戦争時代を記録する

歴史部門

第2次世界大戦が終結して、75年が経ちました。市立博物館では、戦争時代の記憶を記録し、後世へと伝えるため、戦争体験者への聞き取り調査を行っています。

問合せ／市立博物館 (☎226-6521)



聞き取り調査の様子

今年、終戦から75年目の年。当時大人だった方の多くは亡くなってしまい、戦争の話聞くことはもう難しくなっています。一方で、15歳だった方は90歳、5歳だった方は80歳。当時の子どもたちの視点で、どのように戦争に巻き込まれていったのか、お話をうかがう機会が増えていきます。

戦時中、「お国のために」と戦争に協力することが当たり前だと教えられた子どもたちは、戦争一色の子ども時代を過ごしました。今年92歳になる男性は、当時、兵隊にあこがれ、両親に黙って海軍パイロットを養成する施設であった予科練に志願したと言います。その事実を両親に伝えたのは、出発の2日前。両親は驚きながらも、物不足で布地が手に入らない中、母が自らの衣服を使って日章旗(写真)を仕立て、息子を見送ったそうです。見送る母の悲しそうな表情を、今も忘れられないと語っていました。特攻隊として出陣する前に終戦を迎え、男性は肌身離さず大切に持っていたその日章旗とともに帰ってきました。

また、87歳の男性は、水戸空襲直後、亡くなったお母さんの背中で泣き続ける赤ん坊を、誰も助けようとしなかったという記憶が強く焼き付いていると言います。「みな、心の余裕がない状況だったということはおわかり。しかし、今思えばかわいそうなことをした」と、当時を振り返っています。加えて、この方は終戦を迎える前後に、疎開で水戸を離れましたが、配給のわずかなジャガイモしか食べられない



日々を過ごしたとも語っていました。幼少期・青春時代にこのような悲しく、ひもじい体験をした方々のエピソードに触れるたびに、戦争を知らない若い世代に当時の状況を伝えなければならぬと痛感します。市立博物館では、こうした戦争体験者の話の記録化や、展示をとおして、戦争時代が遠い過去にならないよう、一人一人の思いを後世に伝えていきます。また、12月5日から開催する企画展「戦争ってなに?—かなしみと腹ペコの日々—」でも、多くの方の戦争時代の記憶を展示品とともに紹介しています。ぜひご来館ください。

(水戸市立博物館歴史部門学芸員 藤井達也)



戦後75年企画 子どもミュージアム「戦争ってなに?—かなしみと腹ペコの日々—」
期間／12月5日(土)～1月11日(月)
※土・日曜日、祝日、12月29日(火)～31日(木)は入館予約が必要です。詳細は、お問合せください。 入場料／無料 休館日／月曜日、1月1日(金)
※1月11日(月)は開館。

関連イベント

▼講演会「ペリリュー島で戦った水戸の兵隊—漫画『ペリリュー』の作者が語る戦争」

日時／12月12日(土)、午後2時～3時 場所／みと文化交流プラザ 定員／150名

▼水戸空襲戦災誌を読んでみよう!
日時／12月13日(日)、午前10時30

分～正午、午後1時30分～3時
場所／中央図書館 対象／小学4年生～高校生 定員／各5名

申込み／電話で、市立博物館(☎226-6521)へ
※いずれも定員になり次第締切り、料金は無料。

令和2年12月1日号
第1491号

【発行】水戸市 ☎029・224・1111(代表)
〒310-8610 水戸市中央1-5-1
ホームページ／<https://www.city.mito.jg.jp>

【編集】みとの魅力発信課 ☎029・224・5188
✉kouhou@city.mito.jg.jp